

情

報

局

編

輯

日

六

廿

三

第

八

號

年

十

九

工作順序

駐子打



棋



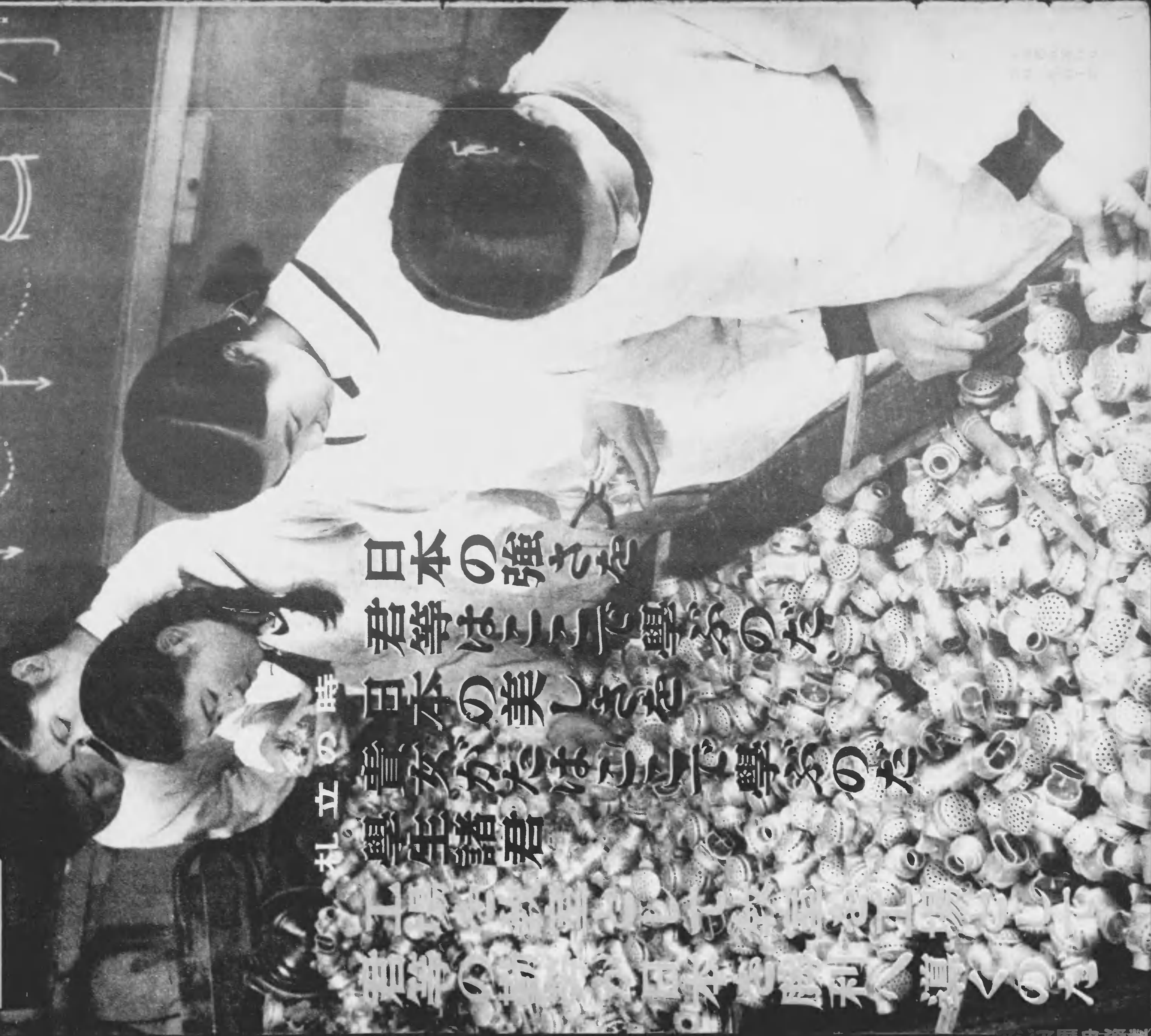
上



下



實業週報



札立の時

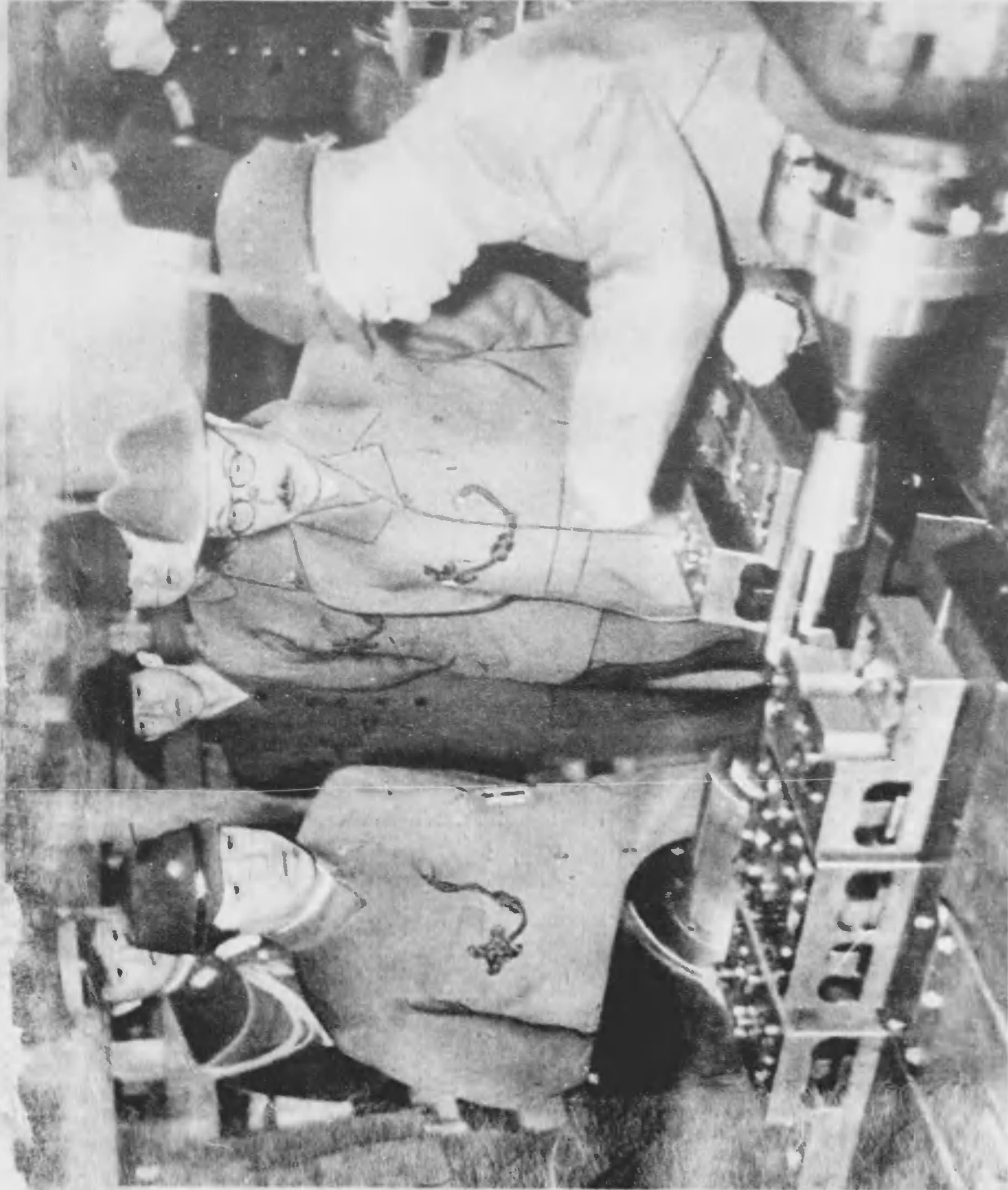
日本の強さを
君等は正しく學ぶのだ
日本の美しさを
貴女が正しく學ぶのだ
學生諸君

君等の勤業は日本の勝利の道である

大臣愛蔵生活観察

「増産の陣頭に」 東條内閣総理大臣愛蔵五巻へ

片時も暇を容れられない増産はますますつづいておるかなと、東條総理大臣は神奈川縣下の浦賀練土所
 ○工場を各廠訪問、戦時増産を現場の状況に熱心に観察し折々入所してきか新機軸士に「諸君
 とともに戦場から」と力強い演説の言葉をまくつた中央、東條内閣総理大臣（四月八日）



描点間週

農産物では、食糧増産の有利き思想をもつて 供出削減量を突破し、○○・〇九%に達す。 共性強化、本端配給機構の刷新と、生産より配
 御料地、宮城外郊の御貸上げ、使用を義務する。 思ふべし農家の異常なる努力と努力を 給への決意路開く
 軍艦投しとみ取われら撃つて食糧決戦に勝ち抜 かん ×
 魚、野菜の出荷配給の改善を目指し、生鮮食料 日給も女子挺身隊結成、学校勤労本部の新設と
 品供給確保の新方策決定す。生産出荷に知事 界岡青島健勝、全く成る。目指すは勝利への二
 昭和十八年度産米の供出、四月九日をもって全 責任制を、大消費地の中核的市街卸賣機構の公 途あるのみ

「内務大臣も手紙」 新の給養事業に東條内務大臣

築地の第一種炊事場のテラスにお客と膝を交えて話し、給養井をわ
 へ大臣「これはらまじと講義さうに宮殿に在り、安藤内務大臣（四
 月七日）



「学校の御飯はおいしい」 閣僚支那大臣學校校長を視察

四月一日から始まつた卒業給食はどうかと、おひる時の
 芝罘白金岡學校校長に表を見せた閣僚支那大臣は「一年生の給食
 で「イタダキマス」と可愛い聲よりかこまれて嬉しきらー
 左端、閣僚支那大臣（四月十三日）



「これなら大丈夫」 東條内務大臣横穴式防壁を視察

「...救済人員はどのくらゐと、精神力は」念慮に設置されてゐる機
 を熱心に偵分する大臣はまづくらな次のなかでいかにも頼もしきらた
 つた上芝罘内の横穴式の工事場を見る大臣（四月七日）

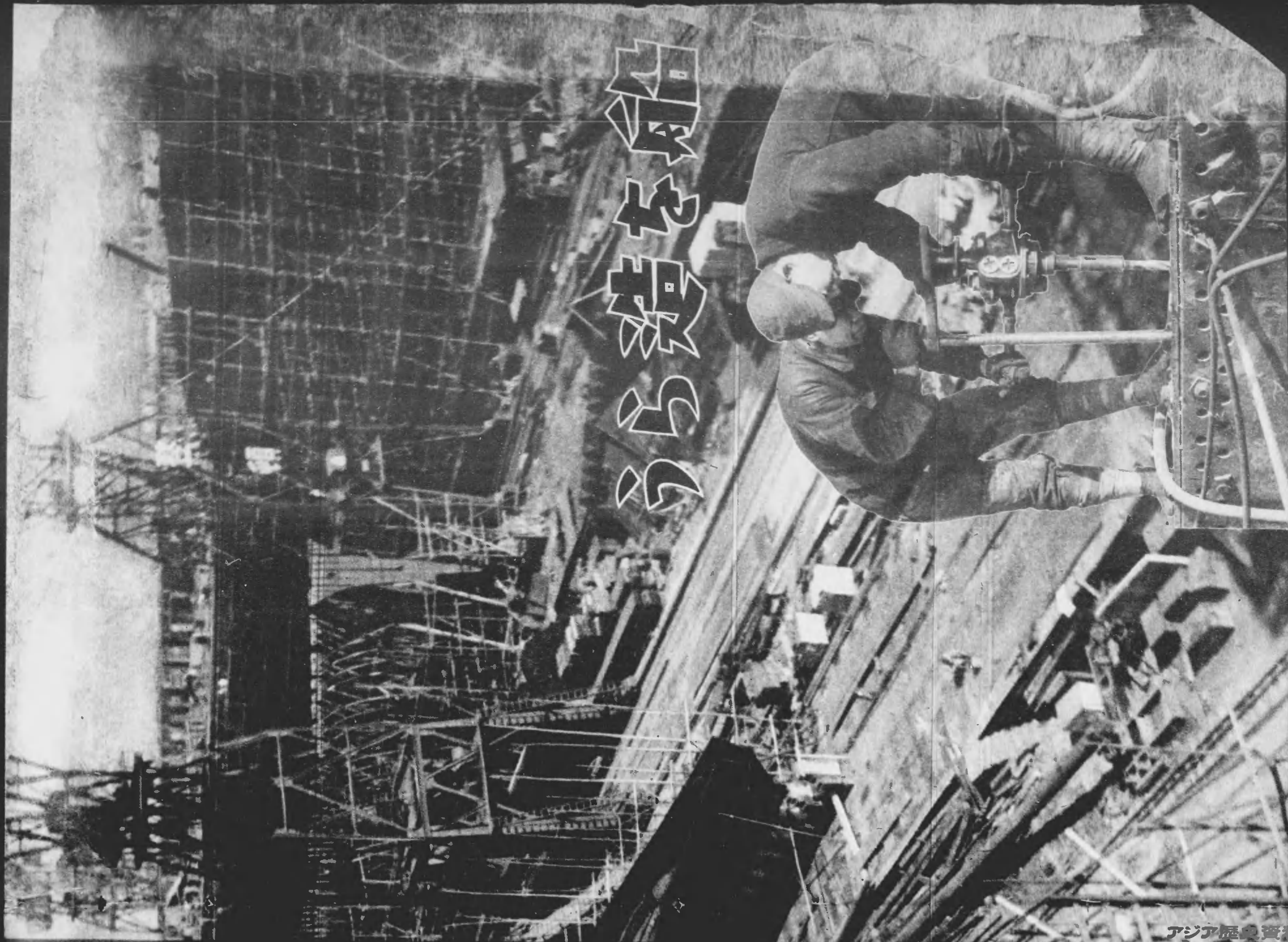


「足」の査察に 五島逋大臣を視察

實施された「足」の非常措置の結果はどうかと、逋部の六六輝の實状を視察
 逋大臣はたまのやうな感想を發表した「...現在のやうな逋部が今後も繼
 續される見込みは形式的な制限はあつても國民の自衛力と田舎な
 運行ができると思ふ」上野驛にて左端、五島逋大臣（四月十三日）

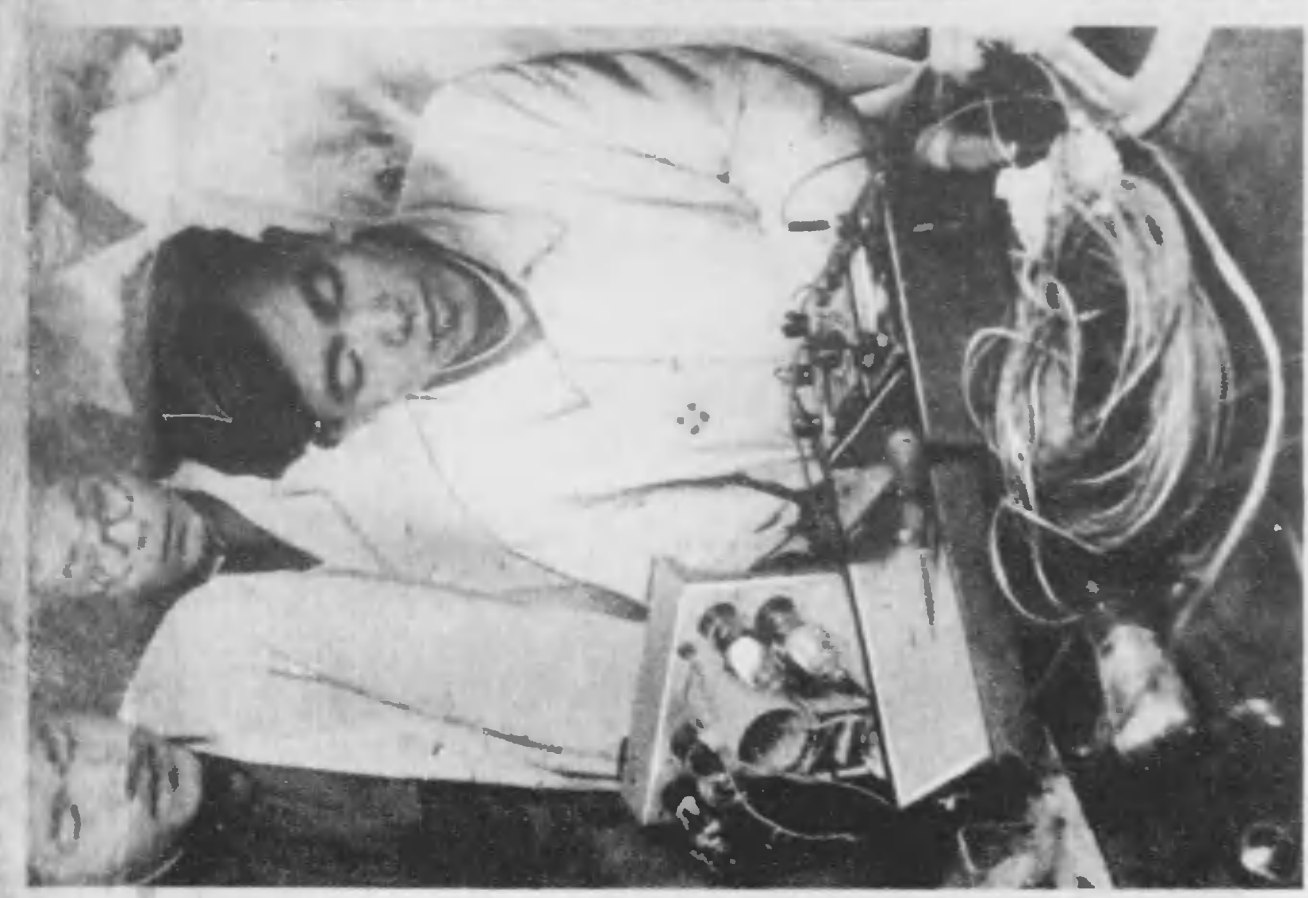


船を造るから始



整頓

く、に敵の野望を砕く一つの道が
ある
船だ、船だ、船だ、船を造らう
この船は鐵をはこんでくる
この船は油をはこんでくる
この船はボーキサイドをはこんで
くる
この船はつばものを、彈丸を、飛
行機をつんで、まっしぐらに戦ひ
の海をゆく
この船は敵艦を越え、敵岸をよみ
つて、遠征のスコールをつき
開く日ごとく、とろろの軌跡をひく
船だ、船だ、船を造らう



ちがて敵をやつつける敵艦兵器の設
 計もつばに基きだすのたど、コン
 パスを操るつとも確りと 上右
 間もなく電氣技術者に、戦艦で電信
 兵だつた自分には殆んど習熟はあり
 ません 上中
 どこの工場でも傷痍軍人といへば大
 歓迎です。傷痍軍人だけの大工場も
 すでに操出できております 上左

こゝでは、仕上げ、旋盤、洋灰、
 藤細工、家具、陶物、製陶、電氣、
 計理等のいろいろの職業が教育され
 又補修生は殆んど全部が寮に入つて
 技能を修業するかたはら、自己の向
 上は、きびしいしかも明るい日を送
 っております

四月二十四日から二十九日までの
 六日間は「軍人援護調強週間」です
 これは全国の各地でこれを機会に傷
 痍軍人の人々や、遺家族への感謝を
 一層あらたにしよとの催しです
 わたしたちは日々再起の日にそな
 へていそがしい傷痍の人々を、東京
 都小石川區大塚の財団法人傷痍軍人
 職業補導所修成社になつてみませ
 う

お國のために傷つた兵隊さんと
 そは私たちの生きたかゝみです。傷
 や病が治ると、もうむかしのけけし
 い闘志をひとすちに少しでも戦力の
 増強にと田園に工場にはたらいてお
 るのです。また、まだこれまでにな
 らない兵隊さんは再起の目をぞか
 なから、日々精神の治癒にまた、技
 術の習得にいそしんでおります

増進の戦列

日九十三一四四十二月四
 間週調強護授人軍四



左の授業の基礎
 理論を視察する
 人、好きに短歌
 の本に現れをい
 やす人、最後の
 たのしい讀書者

案者の真には、
 とぶしの花がに
 ほつておます。
 授の後のひと
 時を静々と静む
 の想ひ出にふけ
 ります



